

2017年8月6日（日）

主 題：「二度と奴隷になりません」

—弱いけれども強い—

テキスト：ヘブル人への手紙9章15～28節

はじめに

- 皆さんは、「赤十字」（Red Cross）という団体をご存知でしょう。赤十字は、スイス人ヘンリー・デュナン（Henry Dunant）、第一回ノーベル平和賞受賞者が提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、作られた組織であります。世界190の国と地域に広がり、非常に大きな働きをしています。
- 皆さんは、「青十字」（Blue Cross）は、何かご存じでしょうか。アルコール、薬物、ギャンブル依存症の人々を支援する団体です。ドイツでは40年以上前から、非常に活発に救援支援活動をしています。ドイツ語で“Blaues Kreuz”と呼ばれます。
- 私の出たドイツの神学校では、毎年夏に神学校が休みに入ると、この「青十字」の団体に神学校校舎が貸し切りとなりました。はじめは、私はなんのことか不明でしたが、それは「青十字」のミニストリーでした。このセミナーは毎年の定番のようでした。大勢の人がやってきて、数週間にわたりアルコール、薬物、ギャンブル等の依存症から解放されるよう、専門家から指導を受けていました。たいへん、大切な働きです。
- ところで、日本でのアルコール依存症患者は約230万人（実際はその何倍か）と言われています。近年では、女性のアルコール依存症が急増しているそうです。ここ10年で、1,7倍にも伸びています（2017年3月現在）。ちょっと一杯が、二杯に、そして三杯に……。気がついた時は、すっかりハマってしまった。そしてお酒に飲まれ、まるで奴隷状態となってしまうのです。お酒を楽しく飲むことから、逆に酒に飲まれてしまい、自分を制御できない状態となってしまう人々が多くいます。依存症問題はとても大いいです。
- 肉の楽しみが、肉を昔に引き戻そうとする働きです。同じようにギャンブル、賭け事も、非常に大きな誘惑と言えましょう。人間は弱いものですね。強いようですが、弱いのです。
- しかし聖書は何と言っているのでしょうか。パウロは次のように言いました。
「**なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。**」2コリント12:10
彼は不思議なことを言いました。そうです！ 弱くても強くなることができます。ではなぜ、パウロはそのように言えたのでしょうか。誘惑に対しては、みな弱い者ではありませんか。その秘訣はイエス・キリストにあります。
- ヨハネというイエスの愛弟子は、次のように言いました。
「**世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。**」
1ヨハネ5:5
- 私たちはイエス・キリストにあって、弱くても強い者となることができます。

なぜ、キリストは十字架につけられたのでしょうか。十字架にかかり殺されたキリストは、弱かったからではないのでしょうか・・・。じつはここに、聖書が教える逆説的真理があります。その逆説的真理は、次のように述べています。

9:26 しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。

- ・今日、私たちはそのイエス・キリストについて、神のみ声を聴きたいと思います。

大切なポイント

1 注がれた新しい契約の血

1) 聖書は契約の書

- ・私たちが手にしている聖書は、旧新約聖書です。この「約」というのは、「契約」の約です。ある方は古い翻訳、また新しい翻訳と誤解しているようですが、そうではありません。
- ・ある方は誤解して、旧約というのは旧教、つまりカトリック教が使う聖書で、新約というのは新教、つまりプロテスタントが使う聖書と誤解している人がいないわけではありません。カトリック教会もプロテスタント教会も、旧新約聖書を正典としています。
- ・ただカトリック教会では、旧約聖書に外典12巻を加えているところに違いがあります。プロテスタントは旧新約聖書66巻を、神の靈感によって書かれた正典としています。
- ・そこで大切なことは、前にもお話ししましたように、聖書は一つの契約を語っています。旧約と新約という二つの契約ではなく、イエス・キリストが十字架にかかれたことによって結ばれた一つの契約です。
- ・紀元前の時代、人々はキリストの十字架を前方におきました。人々が守った宗教儀式は、すべてキリストの「型」、あるいは「影」でした。しかし聖書預言のように、キリスト・イエスが来られ、十字架にかかれ、神の救いの計画は成就しました。そこで、キリスト・イエスの来臨によって、新しい契約である新約聖書が始まったのです。

2) 神の契約の特徴

① 双務契約でなく片務契約

聖書が教える契約は、双方の合意に基づく双務契約ではありません。

いいえ、神が契約として与えてくださったものは、片務契約というものです。片務契約とは、当事者の一方だけが債務を負担する契約のことです。

- ・つまり、私とその債務を果たせなくても、契約を履行するというものです。債務を果たせなくても、いや約束を破っても、片務契約では神がカバーして下さいます。
- ・ではなぜ、神は片務契約を備えられたのでしょうか。

⇒それは「神は愛である」からです。神の愛は、すでにあのアブラハムとの契約で見ることが出来ます。創世記

12:1 その後、主はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。

12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

- ・神の本性は愛（アガペー）です。神の民となった人は、神の子となった人です。どこまで行っても、アガペー愛（片務契約）によって、破ることができない約束の内にあります。感謝！

・② 契約は「遺言」である

- ・原語のギリシャ語では「ディアテイケー」（diatheke）で、15節で「契約」と訳された語と、16節で「遺言」と訳された語は同じです。

（英語訳は両方、testament:テスタメント）

9:16 遺言には、遺言者の死亡証明が必要です。

- ・これはイエス・キリストが十字架上で死なれたことによって、この神の救いの契約が効力を発したということです。
- ・旧約聖書時代、動物の犠牲によって得た血が振りかけられることによって清められました。大祭司が年に一度、動物の血を持って至聖所へ入り、民の罪を償いました。それは次に来るべき神の御子イエス・キリストの永遠の償いの死を示す「ひな型」でした。イエス・キリストが十字架にかかり死んでくださったことによって、私たちの罪を取り除いてくださいました。
- ・ところで、日本人の中には、キリスト教は血生臭い宗教であると、批判する人がいます。その血生臭さこそ、私たちの罪の血生臭さです。罪が赦されるためには、命の代価である身代わりの血が必要なのです。そうでなければ、私たち自身が死ななければなりません。
- ・私たちが罪を持っていながら死なないで済むためには、誰かが身代わりに死ななければなりません。旧約聖書時代は、動物が身代わりに殺されました。しかし、それはあくまでも象徴にすぎませんでした。神の御子イエスが死んでくださったことによって、私たちは罪から解放され、救われたのです。

9:26 しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。

- ・これが「注がれた新しい契約の血」です。それは双務契約ではありません。片務契約です。どこまで行っても、片務契約です。なぜなら神の本性はアガペー愛であるからです。もう一つ大切なことは、契約は遺言であることです。イエス・キリストが十字架上で死なれたことによって、この神の救いの契約が効力を発しました。

2 イエス・キリストの再臨

1) イエスの御血は赦しと自由を与える

- ・著者はここで、さらに一步話を進めました。

9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

- ・ここで言われていることは、人間は誰でも死を迎えることです。それを避けることができる人は、だれ一人いません。それは身体が自然に死を迎えることであり、刑罰という意味での死を指してはいません。被造物には皆、始めがあり終わりがあります。その終わりが死です。
- ・しかし、死の次に「死後にさばきを受けることが定まっている」とあります。神を信じ罪赦された人は天国へ、神を否定し信じない人は地獄へ行き、さばきが定まっている、と言います。これは、たいへん厳しい言葉です。

- では、なぜクリスチャンは天国へ行き、ノンクリスチャンは地獄へ行くのでしょうか。それは被造物の人間が罪人である限り、神はご自身の主権によって、裁き、地獄へ行くことを定められたからです。しかし神はアガペー愛の神ですから、御子イエス・キリストを送り、罪と刑罰を身代わりに受けさせられたのです。
- 神はそのことを預言者を通して、また律法に定められた儀式によって示して来られました。それが現実となって、キリストは十字架上で私たちの罪の身代わりになり、死んでくださいました。ここに神の救いがあります。

9:26 しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。

9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

- イエスはこの犠牲を繰り返される必要はありません。なぜなら、キリストは私たちの一つ一つの罪を取り除かれたのではなく、罪そのものを完全に取られたからです。罪の力は砕かれ、私たちは二度と罪の奴隷となることはないのです。
 - イエスは次のように言われました。 **ヨハネの福音書**
- 8:31 そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。
- 8:32 そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」
- 8:33 彼らはイエスに答えた。「私たちはアブラハムの子孫であって、決してだれの奴隷になったこともありません。あなたはどのようにして、『あなたがたは自由になる。』と言われるのですか。」
- 8:34 イエスは彼らに答えられた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。罪を行なっている者はみな、罪の奴隷です。
- 8:35 奴隷はいつまでも家にいるではありません。しかし、息子はいつまでもいます。
- 8:36 ですから、もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがたはほんとうに自由なのです。

2) イエスの再臨は喜びを与える

- ところで聖書は、イエス・キリストはもう一度来られると教えています（再臨）。それは罪を贖うためではありません。十字架の上で勝ち取られた救いを完成させるために、再び来られるのです。
- 9:28 キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。
- まず「救い」（soteria:ソテリア）という単語には、次の意味が含まれています。
 - ① 霊的に永遠に救われること
 - ② 神の救出力を経験すること
 - ③ 霊的な罪、死、悪魔、過去からの完全解放
 ⇒つまり“祝福”を指す。
 - ところで、ここで言う「クリスチャンの救いのため」、とはどういう意味でしょうか。クリスチャンは救われているはずですが。確かにイエス・キリストを救い主と信じた時に、救われました。しかし救われたと言っても、神の救いのみわぎが始まった、と言った方がよいでしょう。未成熟のうちは、神を信じない人と余り変わりがないでしょう。

- ・クリスチャンになっても、まだ昔の習慣や性格を、まだ引きずっています。すぐに腹を立てたり、妬みの思いが起こったり、他の人と争ったり、不平、不満、時にはウソもついたりします。人を傷つけてしまうようなことも言ってしまう。人を裁いたりすることもあります。他人が自分をどう思うか、気になります。愛の心に乏しく、人を許すことが難しいです。
- ・皆さん！ このように見ますと、自分は成長していないように思います。将来に対する不安、心配も湧いてきます。しかし、そうした中で、神のみ言葉を読み、祈り、証をすることによって、つまり、生ける主との交わりを通して、私たちは学んで行くのです。
- ・神にあって学ぶ人は神に従順に服従し、教会生活が軸足となり、神にあって数々の体験をして行く中で、成長して行きます。しかし、まだ汚れた思いが残っているかもしれません。節制という点で、不十分であるかもしれません。
- ・しかしイエス・キリストがもう一度来られる時、それら全ての不十分であったものが完成し、完全にキリストと同じ姿になることです。それがここで言われていることです。ある人は、クリスチャンであれば誰でも、その救いが完成するならば、余り努力しなくてもよいのではないかと考える人がいるかもしれません。そうではありません。成長のために努力することは大切です。いくら努力しても、この世において救いが完成に至ることはありません。

{例 話}

- ・聖歌 687 番「まもなくかなたの」をご存じでしょうか。
この聖歌は、私に愛唱歌のひとつでした。と一緒に賛美しましょう。

歌詞の紹介：

- ① まもなくかなたの ながれのそばで
たのしくあいましょう またともだちと
(折り返し)
かみさまのそばの きれいな きれいなかわで
みんなであつまる日の ああなつかしや
- ② すいしょうより すきとおる ながれのそばで
主をさんびしましょう みつかいたちと
(折り返し)
かみさまのそばの きれいな きれいなかわで
みんなであつまる日の ああなつかしや

- ・この曲の詩歌は、米国人牧師ロバート・ロウリー師 (Robert Lowry) によって作られました。彼の数多くの名曲のなかでも、「まもなくかなたの」はもっとも多数の人に知られている名曲です。彼はこの曲がどのようにして生まれたか、その背景について語りました。
- ・1864年7月、ある暑い夏の日でした。私はNYのブルクリンの教会牧師を務めていました。丁度その頃、NYでは恐ろしい疫病が流行していました。何百人もの人々が命を失い、悲しみのうちに死んでいきました。川には遺体が流され、川は「死の川」と変わってしまいました。私は非常に心を痛め、悲しみの内に沈みました。その時です！ 私に、聖書のヨハネ黙示録22章のみことばが浮かんできました。
22:1 御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊との御座から出て、

22:2 都の大通りの中央を流れていた。川の兩岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。

- それは天の御国にある「いのちの水の川」です。現実の川は「死の川」ですが、私たちはやがて「いのちの水の川」がある天の御国に入る者です。私たちはその川のもとに集まる者ではないか、という思いからこの詩歌が生まれました。ちなみに原詩は、“**Shall we gather at the river?**”（意識：その川のもとに集まろうか）となっています。原詩の「折り返し」の部分は、“**Yes, we will gather at the river**”（意識：はい、集まりましょう）となっています。このようにして、インスピレーションによるかのようにして、この名曲は誕生しました。
- 皆さん！ 神を信じる者の希望は、天の御国にあります。やがてイエス・キリストが再臨される時、不完全なものが完全なものとされ、水晶のように光るいのちの水の川を見させていただきます。そこには12種の実がなり、毎月、実が実るのです。
- 神の子羊イエスの御血によって、罪から救われた者には、このような幸いな特権が備えられています。なんとという幸いではありませんか。
- しかし、すべての人がイエスの再臨の時、救いの完成を体験するわけではありません。イエス再臨の目的は「**彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。**」待ち望んでいる人々とは、来たるべき天の御国に心を注ぎ、主にお会いすることを待望している人々のことです。

ま と め

主 題：「二度と奴隷になりません」
—弱いけれども強い—

- 私たちは皆、弱いものです。しかし、その弱いものがキリスト・イエスによって強いものとされました。ヨハネは言いました。
「**世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。**」
1ヨハネ5:5
- ですから、私たちは二度と昔の自分に戻る必要はありません。私たちは今日、二つの大切なことを学びました。
 1. イエスの御血は赦しと自由を与える
 2. イエスの再臨は喜びを与える
- なぜなら、その時、不完全な者が完全な者とされるからです。そして天の御国でイエス・キリストにお出会いし、主を喜ぶことができるからです。

なんとという幸い（特権）ではありませんか。

* God bless you !